

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	都市開発論		
担当者(Instructors)	浅野 健	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

人口・資本・都市の様々な機能が集中する都市において、人口や産業の受け皿となるために様々な都市開発が行われてきた。人口減少、少子高齢化、経済・社会活動の停滞、コロナ禍などの諸課題への対応が求められる日本において、都市開発の変遷を国内外の事例も交えて都市開発の実施効果や課題について学ぶ。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	スライド(パワーポイント)を活用します。3回程度の授業ごとに課題を出し、全部で4回程度課題を出す予定。インターネットを活用して国内外の具体的な事例を自ら見つけ、レポートに取りまとめることにより理解度を高める。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	都市開発概論	都市開発の概要について知る	<input type="checkbox"/>
第2回	都市開発のルーツ	日本の都市開発に影響を及ぼした都市計画・都市開発の思想や提案など都市開発のルーツについて知る。	<input type="checkbox"/>
第3回	都市計画制度と都市開発	都市空間や地域を形成する上で必要な都市計画制度と、都市開発のルールについて知る。	<input type="checkbox"/>
第4回	国土開発計画の変遷	戦後の我が国において国土の発展に寄与してきた全国総合開発計画等の変遷について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第5回	ニュータウン開発の変遷	都市への人口集積に伴い、国内外で行われてきたニュータウン開発の計画論を学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第6回	ウォーターフロント開発の変遷	1980年代以降、都市の臨海部を中心に行われてきたウォーターフロント開発について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第7回	海外の都市開発	欧米の都市開発の事例に学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第8回	東京の都市開発	東京の都市開発の変遷と事例に学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第9回	横浜の都市開発	横浜の都市開発の変遷と事例に学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第10回	大阪の都市開発	大阪の都市開発の変遷と事例に学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第11回	名古屋の都市開発	名古屋の都市開発の変遷と事例に学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第12回	コンパクトシティ	市街地の郊外への拡大の抑制と同時に中心市街地の活性化を図るために近年注目されているコンパクトシティについて学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第13回	都市開発とエリアマネジメント	都市開発と地域の価値を維持・向上させるエリアマネジメントを学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第14回	都市開発の総合化	近年の都市開発の動向(土地利用・交通網との連携、スマートシティなど)について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第15回	都市開発論まとめ	都市開発の今後の展望について学ぶ。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

講義に使うスライド(パワーポイント)を事前にアップロードし、予習(2時間程度)・復習(2時間程度)に使えるようにします。都市開発を取り巻く現状や課題に関心を持って下さい。

## ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

4回程度出題する課題を通じてレポートの質を高められるよう、提出後にフィードバックして全体で共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	都市空間と地域まちづくりについてできるだけ多くの事例を交えて学び、課題に取り組むことで、情報収集や分析・考察、表現力を高める力をつけることができるようになる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	
<b>授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)</b> 講座期間中に課題(レポート)を4回程度出し、課題の提出状況及び内容で評価します。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	都市計画教科書	
2	世界都市再開発NOW	
3		
4		
5		